

料金後納

ゆうメール

# MACNEWS

〒616-8156

京都市右京区太秦西野町20

TEL 075-871-0374. FAX 075-882-3777

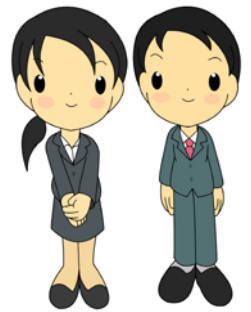
Eメール mac.terakoya@gmail.com

URL <http://www.mac-terakoya.com>

(お子さんが大人になったとき、社会で活躍できるヒントがいっぱい)

## 「今の子どもたちの65%は、

## 今ない職業に就く」



ニューヨーク州立デューク大学のキャシー・デビッドソン大学院教授はこう言います。

まさか、そんな・・・？と思う方も多いかもかもしれませんが、この数字は専門家の間でほぼ間違いのない数字だと言われています。

確かに我々が子どもだった頃「ケータイ」「スマホ」など当然ありませんでしたし、ケータイにダウンロードするアプリの会社が、たった数年で年商数百億の会社に成長するなんて誰が予想できたでしょうか？この業界は多くの新たな雇用を生み出しました。

また、最近ニュースでは「宿題代行」なるサービス(?)が流行しているとか。ドリル1冊¥6,000、図工やポスター1枚¥20,000ほどの料金で、業者が生徒に変わり夏休みの宿題を終わらせてくれるらしいのです。

ある代行業者の話によると、昨年は夏休みの終わり際の駆け込み注文が多かったが、今年は夏休み前から予約注文が殺到！売上は3~4倍になった。とのこと。

・・・需要があれば何でも商売なのですね。それよりも需要があることに驚きです。業者にお金を払うということは、親御さんが注文しているわけです。

肯定派の親御さんからすると、理由があって頼んでいるとのことですが、子どもの立場になって考えて欲しいと思います。自分の課題をお金で他人に済ませてもらった経験は、その子の将来にどのように影響するのか？

話が逸れてしまいましたが、とにかく今の子どもたちが大人になった時、彼らは我々親世代の経験した事の無い世の中を生きるわけです。そう考えると今まで我々が受けてきた「教育」や「価値観」を子どもたちに押しつけるのは非常に危険です。親自身が時代に敏感になり、正しい情報を蓄積し、子供と共に新しい価値観を作り上げていかなければならないのです。

## 「10～20年後、約47%の仕事は自動化される」

これはオクスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授の打ち出した予測です。彼はAI（人工知能）の研究をしており、そのAIが人間の職業を奪うと言うのです。以下、彼の主張です。

「コンピューターの技術革新がすさまじい勢いで進む中で、これまで人間にしかできないと思われていた仕事がロボットなどの機械に代われようとしています。たとえば、『Google Car』に代表されるような無人で走る自動運転車は、これから世界中に行き渡ります。そうなれば、タクシーやトラックの運転手は仕事を失うのです。

これはほんの一例で、機械によって代わられる人間の仕事は非常に多岐にわたります。私は、米国労働省のデータに基づいて、702の職種が今後どれだけコンピューター技術によって自動化されるかを分析しました。その結果、今後10～20年程度で、米国の総雇用の約47%の仕事が自動化されるリスクが高いという結論に至ったのです。」

ロボットが人間を支配する・・・映画の世界と思っていた事は近い将来現実になっていくようです。

では、どのような仕事はロボットに奪われたり、無くなってゆくのか。また、どのような仕事は人間でないとイケないのか？次のように予測されています。

※次項の予測にはマイケル氏の予測したもの他に、日本の専門家が予測したものも含まれます

## 【主な消える職業、なくなる仕事】

- 電車の運転手
- 通訳、速記、ワープロ入力者
- プログラマー
- 新聞配達員
- 郵便配達員
- レンタルビデオ
- ガソリンスタンド
- 高速道路の料金徴収業務員
- 仲卸業者
- 大手電力会社
- 電力会社
- 受付、案内係
- 一般事務、秘書
- オペレーター、コールセンター
- 訪問型営業
- 倉庫作業員、工場労働者
- コピー、FAX、プリンター関連
- 銀行の融資担当者
- スポーツの審判
- 不動産ブローカー
- レストランの案内係
- 保険の審査担当者
- 動物のブリーダー
- 給与・福利厚生担当者
- レジ係
- 娯楽施設の案内係、チケットもぎり係
- カジノのディーラー
- ネイリスト
- クレジットカード申込者の承認・調査を行う作業員
- 集金人
- パラリーガル、弁護士助手
- ホテルの受付係
- 電話販売員
- 仕立屋(手縫い)
- 時計修理工
- 税務申告書代行者
- 図書館員の補助員
- データ入力作業員
- 彫刻師
- 苦情の処理・調査担当者
- 簿記、会計、監査の事務員
- 検査、分類、見本採集、測定作業員
- 映写技師
- カメラ、撮影機材の修理工
- メガネ、コンタクトレンズの技術者
- 殺虫剤の混合、散布の技術者
- 義歯制作技術者
- 測量技術者、地図作成技術者
- 造園・用地管理の作業員
- 建設機器のオペレーター
- 路上新聞売り、露店商人
- 塗装工、壁紙張り職人
- 金融機関のクレジットアナリスト

こうして見てみると、ほとんどの仕事が無くなるように感じます…。中にはロボットの影響だけではなく、時代の流れとして無くなると予想される職業も含まれます。

では、ロボットやコンピューターに代替されにくい仕事は？

## 【ロボット・コンピューターに代替されにくい仕事】

1. レクリエーションセラピスト
2. 最前線のメカニック、修理工
3. 緊急事態の管理監督者
4. メンタルヘルスと薬物利用者サポート
5. 聴覚医療従事者
6. 作業療法士
7. 義肢装具士
8. ヘルスケアソーシャルワーカー
9. 口腔外科
10. 消防監督者
11. 栄養士
12. 施設管理者
13. 振り付け師
14. セールスエンジニア(技術営業)
15. 内科医と外科医
16. 指導(教育)コーディネーター
17. 心理学者
18. 警察と探偵
19. 歯科医師
20. 小学校教員

こうして比べてみると、少し傾向が見えてきます。マイケル・A・オズボーン准教授によると「ロボットやコンピューターは芸術などのクリエイティブな作業には向いていません。」とあります。

となれば、人間は機械にできる仕事は機械に任せて、より高次元でクリエイティブなことに集中できるようになるわけです。逆にいえば、**クリエイティブな発想、創造、企画ができる人間でないとロボットに仕事を奪われてしまう**とも言うことができます。

「今の子どもたちの65%は、今ない職業に就く」「10~20年後、約47%の仕事は自動化される」という予測は文部科学省も把握しており、文部科学省大臣、教育再生担当大臣の下村博文は次のように述べています。

今のままの教育を続けていたら失業者をどんどん出すことになる。偏差値エリートだけでもはやダメで、全ての働く人が主体的に課題解決に当たり、クリエイティビティを発揮し、人間的な感性が求められるんですよ。そうでないと社会で使い物にならない。これは、これからの時代を生きる人全てに問われる問題です。

なのに、どれだけの親がその事実を認識しているでしょうか？

日本の教育についての認識には、40年の開きがあると常々感じています。ほとんどの親は自分の受けてきた教育を例に出して、同じものを我が子に伝えたいと言う。言わば20年前の話をしている。そして世間一般の今の教育課題がある。つまり、20年前、今、20年先の話が一緒になっているところがある。

# そんな時代を生きていくために、

## 我が子はどんな子に育てればいいの??

「生き字引」なんて言葉もありましたが、今までは暗記・記憶力の優れた人が重宝された時代でした。だからこそ詰め込みでもいいから良い成績を取り、少しでも良い学校へと考えられていました。また、ある程度の学校へ行けばある程度の就職先も確保でき、年功序列で〇〇歳で●●位の年収・・・と、計算出来た時代でもありました。すなわち、**高学歴→安定した将来を設計**できていたのです。

しかし、今では高学歴でも就職できない人は数え切れないほどいます。また、大企業に就職したからと言って安心できません。誰もが知っている大企業さえこぞって希望退職者を募り、大規模なリストラを敢行しています。

それでは、これからの激動の時代を生き抜いていけるのはどんな人物か？これまでの内容や下村大臣の話から考えると、

**自ら主体的に取り組み、指示待ちではなく自ら解決する能力を持ち、コンピューターやロボットが到達できないであろう人間的感情、優しさ、思いやりを持った人間**

と言えるのではないのでしょうか？これはまさに **MAC** が育てようとしている人物像です。

MAC の募集は基本的に小学3年生までとしています。それは勉強とは「受け身」ではなく「主体的」に取り組むという習慣を低学年の間に身に付けるためなのです。

低学年のうちには学校の勉強もそこまで難しい内容ではありません。その間に楽しめる内容の学習（積み木・立体パズル・切り絵など）を通して主体的に取り組む習慣を身に付けます。そうすれば、勉強が難しくなってくる高学年～中学生になった時でも、何とか自分で考え、乗り越えていくことができるのです。

イメージで言うと、低学年の間は「勉強を教えている」というよりも「勉強で教えている」といったところでしょうか。

他塾の先生に聞くと、最近の生徒はろくに考えもせずすぐに「わからん～」「教えて～」と言うそうです。塾に通っている間は先生に親切・丁寧に解説してもらえますが、彼らは社会人に

なってから苦勞するでしょうね。社会人になれば塾はありませんし、先輩社員も親切・丁寧には教えてくれません。何より、テスト範囲もなければ正解が何か分からない課題に対して行動を起こさなければなりません。

ほとんどの学習塾は「親切・丁寧」が売りです。これは生徒や親御さんには喜ばれるのですが、本当に子どもの将来の為になっているのでしょうか？ちなみにMACは「不親切、不自由、不便」とでも言いましょうか。しかし、この環境だからこそ自分で必死に考え、行動し、問題を解決出来るようになります。これは社会人になってから大いに役立つ力です。

あとは「**人間的感情、優しさ、思いやり**」の部分です。

MACではあいさつ、返事に始まり躰（しつけ）には非常に厳しく指導しています。ただ、考えて頂きたいのは幼児・小学生の場合、1週間10,080分のうち塾に来ているのはたった60分～180分程度です。それだけの時間で生徒を変えてあげるのには不可能だと思いませんか？

子どもを変えたければ、多くの時間を過ごすご家庭でのしつけが最重要となってきます。今は学校では生徒を叱る事はできませんので、子どもを厳しく指導できるのは親だけなのです。

きつく叱ったら嫌がられる・・・、すねられる・・・、機嫌が悪くなる・・・。色々と頭に思い浮かぶかもしれませんが、今のうちにそれをしてやらないと将来困るのは子どもです。

我々MACの講師も第二の親のつもりで、叱るべき時には心を鬼にして叱っています。叱るのは体力もいるし、嫌な顔をされるし本当は嫌なのです（^^;）・・・しかし、ちゃんとしたタイミングで叱ってもらえなければ逆に子どもが可哀そうだと考えます。

今後もMACの指導方針にご理解とご協力をお願い致します。

保護者欄 Macに通い約34月たちました。親の予想もウラズリ、全く嫌がらな  
楽しみにしているようでもあります。一番変わったと思うのが集中力です。今まで全くなかった  
集中力が身についてきています。それだけでなく、出来ないと悔やしいという気持ちから  
涙も流すように頑張りました。あまりめげないという気持ちが芽ばえてくるのに、  
ビックリしております。大げさかもしれませんが生玉をいける為の土台も作ってあげてい  
ようです。これからもよく頑張りたいです

※親御さんの感想文です。このような声を頂くと  
「よし、また頑張ろう！！」と思えます（^^）